

第2回松戸市子ども子育て会議 ワークショップまとめ

1. 概要

平成 30 年度 11 月 26 日に開催された第2回松戸市子ども子育て会議において、市内の子ども・子育て支援や青少年育成について、参加委員によるワークショップを実施しました。

ワークショップのテーマは以下の2つを設定し、議論を行いました。

セッション1 妊娠・出産から未就学児とその家庭への支援について考える

セッション2 小中高生とその家庭への支援について考える

2. 当日の進行

参加委員を5つの班に分け、付箋紙に課題やその解決の方向性を記入し、それぞれのセッションの最後に、班ごとに発表しました。当日の各セッションにおける進行は以下のとおりです。

①発表者の決定

②付箋紙記入

- ・松戸市の課題とその解決の方向性などに分けて、まずは思いのまま、付箋紙に自由に書き出します。

③班内共有

- ・個人で書いた付箋紙の内容を一人ずつ読み上げながら、班内で共有します。
- ・子どもに対するもの、保護者に対するもの、地域で行うものなど、適宜、分野ごとにグルーピングしていきます。

④まとめ

- ・付箋紙の共有が全員終わったら、班内で自由に話し合いを行います。
- ・発表に向け、グルーピングなどをまとめていきます。

⑤発表

- ・最後に班ごとに発表し、全体で共有します。

3. 各班の構成

A班

坂野 喜隆	流通経済大学 法学科 准教授
天田 由紀子	公募市民
石田 尚美	松戸市おやこDE広場ネットワーク 代表
荻野 正美	特定非営利活動法人 松戸市障害者団体連絡協議会

B班

阿部 真美子	聖徳大学 児童学部児童学科 教授
小野 元子	一般社団法人 松戸市医師会
玉乃井 広絵	松戸市子ども会育成会連絡協議会
知久 隆	松戸市保育園協議会 会長

C班

杉村 裕子	聖徳大学 児童学部児童学科 准教授
加藤 睦	千葉県助産師会
寺田 美子	松戸市私立幼稚園連合会
平井 典子	松戸市母子寡婦福祉会 会長

D班

神谷 明宏	聖徳大学 児童学部児童学科 准教授
小松 世幸	公益社団法人 松戸歯科医師会
奈賀 綾子	松戸市PTA連絡協議会 会長
松崎 律子	松戸市民生委員児童委員協議会 主任児童委員連絡会代表

E班

文入 加代子	社会福祉法人 松戸市社会福祉協議会 会長
佐藤 慎一郎	公募市民
百田 清美	松戸市放課後児童クラブ法人連絡協議会 会長
藤原 久恵	松戸市立牧の原保育所 所長

4. 意見内容(概要)

※当日の協議を踏まえて内容整理をしているため、当日の付箋記述やグループピングとは異なります。

セッション1 妊娠・出産から未就学児とその家庭への支援について考える

A 班

【情報発信の充実】

- ・松戸市の充実した取組みを、もっと発信する必要がある。
- ・アプリなどの情報ツールをとして積極的に活用する。
- ・複数の子どもを育てていると、情報を得る時間がない。

【増加する外国人との共生】

- ・多文化共生の視点が、行政においても市民においても必要。
- ・両親が日本語を話せない世帯への支援は、きめ細かく行う必要がある。
- ・多言語対応の掲示板を設置してはどうか。

【地域による子育て支援】

- ・地域が網目のようにとつながっていく支援が必要。
- ・地域資源をもっと活用する。(場所として空き家や学校、人材として高齢者やボランティアなど)
- ・小学校以降の家庭への支援のため、学校部門での福祉的アプローチが必要。
- ・里親制度の活用のハードルがもっと下がらないか。
- ・網目の多い子育て支援をしていくため、地域で人を育てる必要がある。

【困り事や悩み相談への対応】

- ・子育てについて学ぶ機会が必要。
- ・共働きの家庭でも気軽にができる家庭教育の充実。
- ・子どもの発達に対する不安が大きい。
- ・孤立感を抱える親は多く、信頼できる人がそばにいる安心感が重要。
- ・子育ての悩みをインターネットで相談できるようにする。
- ・ママ友支援や子育てメンター制度※を導入してはどうか。

※メンター制度：企業において導入されている、新入社員サポート制度。部署の上司等とは別に、指導・相談役として先般社員を配置することによって、仕事における不安や悩みの解消を図る。

【保育の提供の充実】

- ・待機児童はゼロだが、保育の提供は不足している。待機児童対策を進めることで、育児休業をとれるはずの人が早く保育所へ入りたがり、逆に週2～3日就労している人など本当に保育が必要な人が入れない現状がある。
- ・放課後デイサービス(重心児)について、不安を感じている保護者が多い。保護者が精神疾患を抱えているケースも増えている。

【人材育成】

- ・市職員(専門)アドバイスが重要。
- ・専門性のある業務等に従事する市職員の異動については、取組状況に応じて考えてほしい。

B 班

【地域による子育て支援】

- ・虐待の早期発見のために、専門機関の連携体制を充実しなければならない。人口規模の大きな自治体だと、支援につながっていない家庭を見つけにくいのではないかな。
- ・地域のつながりサポート体制の充実。
- ・お休みの日でもふつうの外遊びが少ないように思う（イベントの参加は多いようだが）。そこに行けば相談、買い物、子どもの託児・高齢者の見守りなど、機能集約された拠点が必要ではないかな。

【増加する外国人との共生】

- ・日本語が通じない家庭への支援が必要だが、コミュニケーションに課題がある。
- ・文化の違う人たちが自由に集まり交流できる＜場＞づくりを行い、相談機能も強化する。
- ・保育施設に外国の方が増えている。共生のためのコンシェルジュが必要ではないかな。

【情報発信の充実】

- ・松戸市は子育て支援制度が充実していると思うが、支援の中身を知らない方が多い。支援のメニューを知ってもらう工夫が必要。

【困り事への対応、悩みの窓口の拡充】

- ・妊娠中に、出産後育児についてのイメージがつかめていない方が多い。
- ・通園などをしていない、家庭で子育てをしている方への支援が少ない。地域における育児相談の窓口を拡充する必要がある。
- ・育児相談施設と専門機関の連携を図り、親の育児能力の向上を図る必要がある。
- ・気軽に自由に、不安のあることを相談できる＜場＞づくりの必要。

C班

【子育て中の親の意識】

- ・子どもが0歳の時点から幼稚園見学に来ている親がいて、焦っていることが感じられる。
- ・母親がまわりの目を気にしすぎている。子どものためよりも、自分のための育児になっている。
- ・子ども同士のふれあいが少ない。親が「子ども」になれるような場が必要ではないか。
- ・親が様々な情報に振り回され、親子とも直接的、具体的体験が少なくなっている。
- ・子と共にいる楽しさがわかるようなまちづくりが必要。

【地域による子育て支援】

- ・子育てについての知識を、親に伝える必要がある。
- ・子育てサロンが、子どもが1ヶ月、3ヶ月時点から受け入れており、重要な地域資源である。
- ・地域の人的環境を活用する必要がある。
- ・高齢者の子どもの多世代交流が必要ではないか。

【保育の提供の充実】

- ・松戸市の幼稚園は、近隣他市の住民も多い。子育て環境は充実していると思う。
- ・幼児教育の質の向上が必要だが、教員・保育士の確保が課題である。
- ・母親の就労の有無にかかわらず、支援ができる体制が必要である。
- ・子どもを受け入れる施設は多くなっているが、安全面が心配である。
- ・届くべき人にサービスが届いていないと感じる。

【父親の役割】

- ・母親の負担が大きい。父親の理解や、子育てへの参加を促進する必要がある。

【人材育成】

- ・新規事業は特に継続的に取り組むべきだが、市の職員が変わりすぎると感じる。

【社会的配慮を要する子どもへの支援】

- ・ライフサポートファイルは効果の期待できる取組だが、他市との共有はできるのか。

D班

【増加する外国人との共生】

- ・多言語での情報提供を考えていく必要がある。
- ・日本語の学習機会を増やす。
- ・外国籍にルーツのある人・(子)文化のちがい

【情報の発信】

- ・子育て中は、情報が多すぎてどれを信じてよいかわからない。
- ・特に出産前の若年層に向けたパンフレット作成など、ピンポイントの情報発信。
- ・全市的に、情報のニーズアンケートを実施してはどうか。(外国人も対象に)
- ・食育の推進は重要。
- ・子育て支援のまち松戸の、もっと有効なPRを検討する。民間のアイデアも導入する。

【子どもの遊び場・つどいの場】

- ・外出もせずに、家の中で長時間過ごしている親子（特に第一子）がみられる。
- ・初めて子どもを持った親が、行ってみたくなるような地域イベントが必要ではないか。
- ・異年齢交流を推進する必要がある。利用する親の間の交流も充実できないか。
- ・子どもとの身体的な遊び方を、親が学べる場所が必要ではないか。
- ・安全に遊べる場所を整備する必要がある。
- ・子育て支援の場づくりを提案する場があればよい。子育て支援会議も5回を数えるが、広域でも実施できるとよいのではないか。

【父親の役割】

- ・パパの育児講座が少ないと思う。
- ・父親の参加促進のため、夜間の講座開講を考えてみてはどうか。
- ・ある程度の育児スキルを確保するための交流会の開催。

【発達障害等の不安への対策】

- ・出産前の教育は充分なのだろうか。
- ・子育て支援は本当に進んでいるが、発達障害等をチェックする機能は充分なのか。
- ・母親が子育ての不安をひとりで抱えているように感じる。

【母子保健】

- ・5歳児の健診の普及
- ・妊婦歯科健診のさらなる普及、周知を図る必要がある。
- ・食育の推進が重要。

【困り事への対応、悩みの窓口の拡充】

- ・親同士のつきあい方が（コミュニケーション）難しい。
- ・就園前、就学前の保護者に対する家庭教育の場が必要。
- ・幼稚園や保育所でいつでも相談にのってあげられる体制が必要。

【保育の提供（一時預かり）の充実】

- ・一時的に預かってくれる施設を充実する必要がある。

E 班

【子どもへの支援】

- ・失敗する、間違える、やり直すといった（非認知能力を伸ばす）取組が必要。
- ・権利侵害について学ぶ経験をする。
- ・多世代間交流が必要。

【出産前の親への支援】

- ・妊娠中の不安な気持ちを気軽に相談できる場を、市民によく周知する。
- ・父親は、パパになるという気持ちの切り替えタイミングがない。

【出産後の親への支援】

- ・母親に時間的・体力的余裕がない。
- ・子どもが他の子となじめない場合の相談相手、場が必要。
- ・ムリない集団活動の機会の提供が必要。
- ・「～しちゃダメ！」が多すぎる（家の中でも外でも）。
- ・習い事をさせなきゃいけない雰囲気が強い。
- ・子どもへの見守りと手離しのバランスが悪く、カーリング育児（過干渉）になってしまうことも多い。

【子育て全般】

- ・出産後、子どもと向き合うことが難しい方への支援が足りていない。
- ・子どもと一緒に過ごせる場所が不足している
- ・子育ては手がかかる、時間がかかる、汗をかくという心構えが、親に不足している。

セッション2 小中高生とその家庭への支援について考える

A 班

【教育】

- ・子どもが遊び方を知らない、親が遊ばせ方がわからない。
- ・情報化社会で、コミュニケーション力が不足している。
- ・英語教育も含め、学力向上や特色ある教育の導入などに力を入れて取り組めないか。

【外国人との共生】

- ・外国人への支援が必要。
- ・多文化共生教育など、言葉や文化の違いを知るきっかけが必要。

【地域の居場所】

- ・思春期の子どものニーズにこたえた居場所づくりが求められている。
- ・居場所は、地域で小さい時から利用していないと、大きくなってもしけない。
- ・小・中・高の異年齢交流など、みんなで利用できる場所。子どもが思わず利用したくなる仕組み作りも必要。
- ・障害児や外国人など、いろいろな人が集える場が必要である。そのためには指導者の育成も必要。
- ・ゆっくり勉強できる場が不足している。
- ・定年退職した先生が教えるなど、地域を利用した学習支援。
- ・地域の居場所と学校の連携を深めることも必要。
- ・中高生の居場所をもっと中高生に知ってもらう情報発信が必要。
- ・障害があってもなくても過ごせる場所が必要。
- ・放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルームは増えたが、学校以外の場が必要。

【地域とのつながり】

- ・現代にあったこども会が必要ではないか。
- ・地域の人材活用。1歩引いた声かけ。
- ・小1に防犯ベルを配る、GPS アプリなど、安全面での支援が必要。

【親の悩み】

- ・子どもの成長に伴い、母の悩みは複雑化していく。小学生の親の相談先がない。
- ・母の不安の発散場所がなく、虐待など子どもに向く懸念がある。
- ・発達障害の子ども・親との関わりが重要。
- ・家庭支援条例^{*}も効果があるのではないか。

^{*}家庭支援条例：家庭での保護者による家庭教育の第一義的責任を明記するとともに、学校や地域の役割を明らかにする条例。

B 班

【地域とのつながり】

- ・他年齢グループによる地域活動ができればよい。
- ・地域ボランティアによる活動の場の提供（文化活動）
- ・中高生ボランティアが地域で活躍できる場づくり。
- ・いろいろな人、いろいろな文化と出会い交流する機会づくり
- ・見守る大人が少ない。
- ・ほどよい距離感でご近所とお付き合いが難しい

【放課後の過ごし方】

- ・家庭経済格差が学習能力と意欲に影響を与えており、学習支援の充実が必要。
- ・放課後児童クラブは整備できてきたが、学習支援を目的とする KIDS ルームを充実してはどうか。
- ・放課後児童クラブの質の均一化、向上が必要。
- ・親の負担軽減のために、放課後児童クラブ・KIDS ルームの充実が重要。
- ・部活のあり方（主にスポーツ系）を検討する必要がある。指導職員の負担が問題。

【子どもの居場所】

- ・安心して遊べる場が少ない
- ・こどもの居場所、児童館が少ない。
- ・部活に参加していない子がどのように過ごしているか、把握する必要がある。
- ・障害児への対応として、放課後デイサービスへの支援の充実。

【コミュニケーションの変化】

- ・子どもたちが人と向き合う時間が少なくなり、スマホなどで文字と向き合う時間が増えている。
- ・ゲーム・スマホ以外の好きなことを見つけ出せる機会づくりが必要ではないか。
- ・情報・ネット社会において、子どもに対し学校も関わる、家庭も一緒に向き合う。
- ・SNS でのいじめが問題となる中で、学校・放課後児童クラブなどでの配慮が求められている。
- ・子どもからの悩みの発信が、ツイッター・ライン・ネットでの書きこみが増えている。

C 班

【異年齢交流】

- ・職場体験（保・幼）に来た中学生が人のあたたかさを感じたということがあった。
- ・赤ちゃんとふれあう体験も大切だが、少し年下の子と話す体験も必要。中高生と赤ちゃんのふれあいに加え、中高生と幼児も積極的に行う。
- ・年齢の近い peer（ピア）※が大切。中高生の居場所に大学生を。
※ピア・サポート活動：子ども同士が自主的に支援し合うことによって、問題解決や自己実現への歩みを促す活動。

【地域との交流】

- ・親に、他人の子の面倒をみる余裕がない。
- ・地域社会参加の機会の創出。
- ・町会と児童館のつながりが足りない。作っても続かない。
- ・部活動に一般人に入ってもらえるのもよいのではないか。
- ・塾と部活の中間のようなものを（校庭や学校をかりて）。学区も関係なく、誰でも参加できるようなものが必要。
- ・おはなしキャラバンのような取組がもう一度必要ではないか。

【家庭・学校・地域の連携】

- ・親教育が大切であるが、学校の先生も保護者会の運営に課題がある。
- ・義務教育は子どもの義務ではない。学校だけが教育の場ではない。

【経済負担軽減】

- ・小中高になるとお金がかかると心配する人が多い
- ・奨学金を背負っている高校生も多い。

【親子の関わり】

- ・親と子の共有の時間が少ないのではないか。
- ・父親との会話も大切。
- ・親に余裕がなく、子どもの生活をみられていない。子どもの生活リズムに乱れがある。

D班

【子どもの居場所：行き易い場】

- ・不登校にも、行きたくなくて行かないケースと行きたくても行けないケースの2種類がある。
- ・人と触れ合わなくても楽しめることも必要。
- ・話をだまって聞いて、アドバイスしてくれる大人が居る場。

【子どもの居場所：学習支援の場】

- ・学習相談にのってくれる人が居る場。
- ・図書館はおしゃべり禁止で、グループ学習ができない。
- ・基礎的な学習内容はなかなか恥ずかしくてひとに聞けない。全市で「ベーシックスタディ※」メソッドの流通を検討してもよいのではないか。

※ベーシックスタディ：高校生等が小・中学校段階の学習内容を学びなおすことにより、基礎学力の向上を図る取組。

【子どもの居場所：多様な目的を許容する場】

- ・外国人の中高生の居場所の確保が必要。
- ・喫煙やセックスに関することなど、相談しづらいことを相談できる場所。

【子どもの居場所：中高生の自由なつどい】

- ・中高生の居場所（児童館）が必要。中学生は、部活に参加しない子の行き場がない。
- ・中高生が遅くまでいられる場所が必要。
- ・気軽に立ち寄れる無料の場があるとよい。
- ・中高生の居場所を中高生（利用者）自身で運営・企画するのもよい。
- ・Wi-Fi 無料の場。
- ・SNS の利用方法を教える。

【子どもの居場所：自己表現・体験の場】

- ・中高生のバンドやダンスなどを練習・発表できる場所が必要。
- ・自尊感情の低い子どもが多い。体験活動が必要。
- ・小学生の共通体験（キャンプ・映画・YouTube など）は重要。

【子どもの居場所：異年齢交流】

- ・小中高のコミュニケーションの場の確保。
- ・親・教師以外の大人と接する機会がない。
- ・ボランティアや地域活動などに参加しやすい環境を。自分は役に立つ人間という意識を育む場となる。
- ・図書館を多文化・異世代・同世代交流の場にしてはどうか。

【放課後の過ごし方】

- ・部活動の時間短縮。土日どちらかは必ず休みにする。
- ・親が不在時に、自由に遊び（行き来）できない家が増えている。

【子どもと家庭の関わり】

- ・中学生の親も忙しく余裕がない。
- ・中学生にも部活・塾などで時間がない。
- ・不登校に対する大人の認識を変えていく必要がある。

【その他】

- ・高校生医療費の定額制の実現。

E 班**【子どもの居場所に必要なもの】**

①機能について

- ・大人の期待と子どもの希望は違う。
- ・中高生の居場所が足りないように思う。
- ・マナーとルールの範囲で、自由に過ごせる場をつくる。
- ・遊びの体験不足を補う場をつくる。
- ・K I D Sルームの機能を整理。

②人との関わり

- ・親以外に何でも話せる人が必要。
- ・文化的活動の場。例えば、読書をもとに思想的な議論ができることなど。
- ・世の中の仕組み、政治的な問題を同世代、多世代で話し合える場。
- ・中高生と大人との交流の場が必要。周りの大人にほめられる機会づくり。

③内容

- ・子ども食堂でお腹は満たされるが、精神的な部分も支援できればいい。
- ・大人も子どもも一緒に食べる。

④その他

- ・家にいられない（親が不在等）子の駆けこみ寺はできないか。

【親同士のつながり】

- ・親同士のつながりが必要。
- ・親の相談窓口を整備。
- ・教育費がかかる時期には共働きが増え、忙しく親子の会話が減っている。

【子どもにとっての課題】

- ・その子らしくいられる空間が必要。
- ・特に中高生は、禁止が多く、自由に遊ぶ場所が少ないのではないか。
- ・思春期の悩み（異性とおつきあい、性教育など）の相談場所・しゃべり場所が必要。
- ・塾に追われて疲れている。
- ・夢や目標を生み出す場が足りない。

【地域】

- ・地域の行事に簡単に参加できる場づくり。
- ・部活ではなく、野球などのスポーツを同世代で楽しめる地域での場。